

子どもたちが創る

みらい

がある

That's 未来ず

ときわ未来図推進リーフレット Vol.1
2015.11.7

「未来図推進の友」として

『未来を創る教育』は、私たちの現場からはじまりました。

これまでのやり方にとらわれない協働的な挑戦が、学校を変え、地域の未来を変えていきます。『地域に学び、地域でつながり、未来を創る教育を私たちは実現します。』の未来図スローガンには、一人一人の会員の夢と希望が込められています。私たちの取り組む『未来を創る教育』は、その実践を積み重ね、成果を確かめながら、総意で創り上げていくものなのです。

私たちは未来図推進の友として、『未来を創る教育』を皆で考えていきましょう。そこに、子どもたちが創る`みらい、`があります。

ときわ未来図推進委員会



ときわ会

『地域教育プログラム』創出

なぜ、地域教育プログラムなのか

イメージDVD連動企画！

もち米ではなくコシヒカリに

広がる子どもたちの『学び』



ストーリー1

阿賀町立西川小学校は、学校田でもち米を栽培し、もちつき大会をしていた。しかし、このもち米をコシヒカリに変えることで・・・。
販売を目的にして、流通の学習ができる。それに伴って、等級検査、販売方法の工夫等の必要が生じ、子どもたちの『学び』は広がりを見せた。目的が希薄だった米作りが、一気に、体験をととした価値ある学習へと変わっていった。

縦糸と横糸とが織りなす『学び』の応援団旗

地域と共に紡ぎだす教育活動



ストーリー2

聖籠町立山倉小学校は、いち早く学校運営協議会、学校支援地域本部事業を導入し、多くの教育ボランティアが教育活動を支えている。学校教育への協力的な風土がある。
学校や、これらの団体の活動を縦の糸と横の糸に見立て、この糸を織り込みながら、一枚の大きくて丈夫な布に仕上げていくイメージで、教育課程を編成していく。この布は、いつしか、『学び』の応援団旗となって、学校に新たな風を吹き込んでいった。

*各支部には、このイメージDVDが配付されています。併せてご覧ください。

ときわ未来図の目的とは

未来を創る子どもを育てること

- 「学び」と「つながり」の往還
- 「未来を創る力」が付くことの実証
- 「未来を創る教育」の実現
- 舞台は「地域」

未来を創る教育とは

「地域の特色が活かされ、地域のアイデンティティが確立される。」
この過程で子どもたちを育てる一連の営み。

- 「地域教育プログラム」を教育課程に位置付ける。
- ・ 地域に愛着と誇りをもつ子ども
 - ・ 持続可能な独自の学校文化・地域文化の形成

地域教育プログラムづくりで大切にしていきたいことは

- 1 地域の問題解決に共に取り組む能力・態度を育てる。
- 2 「何を学ぶか」と同じように、「どのように学ぶか」「何ができるようになるか」を大切にする。
- 3 地域での人材活用と、その活動を支える連携ネットワークをつくる。

地域は「glocal (Think globally, Act locally)」な存在です。
身近な価値ある体験や、身の回りの課題の解決に挑むことの経験こそが、子どもたちに、これからの変化の激しい社会を生き抜く力を育みます。
私たちは地域を舞台に、「地域に学び、地域でつながる教育」を目指したのです。

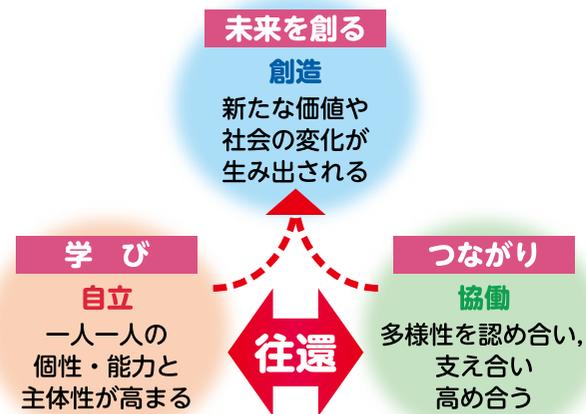
「未来を創る教育」では、子どもたちにとっても、教師や学校、そして活動の舞台である「地域」にとっても価値ある活動として展開することを目指していきます。



さらにもちたい視点 ~Points of View~

- 地域と共にある「学校づくり」に必要なこと
- 育てたい子ども像にかかわる十分な議論
 - 学校運営における「協働」による活動
 - 学校と地域との連携マネジメント力の向上

地域教育プログラムは「学びとつながりの往還」をうながす



『ときわ未来図』の推進のシナリオは第2期教育振興基本計画と軌を一にするものです。



【上図：第2期教育振興基本計画より】

地域に学び 地域でつながり 未来を創る教育を 私たちは実現します

地域教育プログラムがうながす「学び」と「つながり」の往還

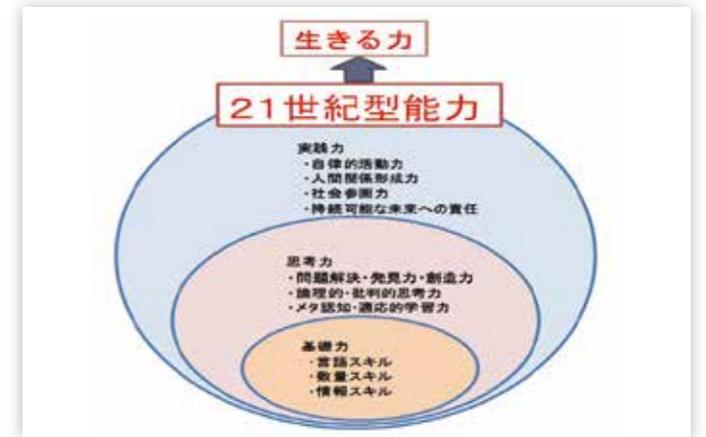


ときわ未来図

常緑の「松」は、ときわ会のシンボルツリー。ときわ会150周年にむけた私たちの「未来図構想」です。



「学び」と「つながり」の往還が子どもたちに「生きる力」を育む



[図：国立教育政策研究所]



教師としての基礎力①

UDL

ユニバーサル デザイン フォー ラーニング

『だれもが分かる授業づくり』
～より確かな授業力を身に付ける～

学ぶ環境の整備

- 教室の環境づくり
- 学習用具への配慮
- 学習ルールと統一
- 学級のルールづくり

黒板の回りをすっきりと整理しています



授業づくり

- 1時間の流れの提示
- 視覚情報を加えた説明やプリント
- 実態把握と支援方法の検討
- 学び方の違いに応じた適切な支援

実際の写真を
使って課題を
説明しています



全校体制の取組

- UDLの視点の明確化
- 実践の成果と課題の共有
- 協働による研修の推進
- 特別支援教育ハンドブック (I・II) の活用

研修会で話し合ったことをグラフィックにしています



FT

ファシリテーション

『分かり合う・力を出し合う・学び合う』
～他者とよりよくかかわる力を身に付ける～

課題・方策発見

人間関係づくり

合意形成

参画意欲

協働的



授業で

主体的



職員研修で



地域で

～平成27年5月30日 支部長会でのファシリテーションより～

基幹病院がやってきた!

7グループで行われたファシリテーション(以下、FT)。Cグループでは、「基幹病院を地域教育プログラムとして活用したい」という発想をFTによって検討していきました。

情報の共有

- 基幹病院が地域にできることで、都市部に負けない「人の命が助かる町づくり」への期待が高まっている。
- 「地域と医療をつなぐ」をテーマに、キャリア教育を推進したい。
- 医療レベルが向上する地域で、「医療-行政-住民」の思いを学んでレポートを作り、自分の生き方に活用する学習を展開したい。

学習対象を「基幹病院」とし、そこにかかわる人々の「思い」を調べ、学びを「レポート」にまとめる、という構想です。その構想を共有した他のメンバーからの質問・意見により、「生徒にとっての基幹病院」として、次の3つの「何?」という視点が明らかになってきました。

拡散



基幹病院って何だろう?
【内容・知識】



何でここに来たのか?
【背景・願い】



何が変わるのか?
【変化・未来】

これらの視点から、具体的な学習活動が挙げられました。

基幹病院についての調べ学習
地域施設の見学・職場体験

医療従事者からの聞き取り
お年寄りとの交流

地域住民からの聞き取り
学びの情報発信

これらの学習活動を教育課程に位置付け、「地域教育プログラム」に仕立て上げることにより、次のような学びが期待できるというまとめになりました。

収束

- 「今まで」と「今後」の変化を学ぶことをとおして、医療だけでなく、これからこの地域でどのように暮らしたいのかを考える。
- 様々な追求方法を体験することをとおして、汎用性のある学び方を学ぶ。



考えの共有

このFTをとおして、「基幹病院」を中核とした学習活動が、「持続可能な社会」や「地方創生」につながる学びとなり得る、ということが共有されました。



7グループのFTによって、「地域教育プログラム」創出に向けたキーワードがいくつか浮かび上がりました。

「郷土愛」「誇り」「連携」「発信」「行動」「マネジメント」「共有」「価値付け」「関連付け」「支援」などです。

これらを手掛かりに、各校の教育実践が「地域教育プログラム」にグレードアップされることを願っています。